

学校評価（生徒・保護者）の考察

北区立王子桜中学校

文責 副校長 名取

令和5年1月

＜実施内容＞ 対 象：生徒全員、保護者全員
実施期間：令和4年12月～令和4年1月6日
回 答 数：生徒 464名（90%） 保護者 244名（51%）

結果の分析

【学校生活は楽しいですか】

○90.1%の生徒が「学校生活がとても楽しい、楽しい」と回答し、9.9%の生徒が「あまり楽しくない、楽しくない」と回答した。また、92.5%の保護者が「学校生活を楽しく過ごしているように思う」と回答した

◇「とても楽しい、楽しい」と回答した生徒は、全校生徒対象で観ると昨年度より0.6ポイント増加し、「あまり楽しくない、楽しくない」と回答した生徒は、0.6ポイント減少した。学年別で観ると1年生が90.1%、2年生が92%（昨年度比+0.5ポイント）、3年生94.5（昨年度比+5.2ポイント）であった。新型コロナウイルスの影響が今年度も続いているが、学校行事のメインである体育祭が保護者、地域の方の観戦有りの状況で開催できたこと、また、宿泊行事（修学旅行、EC岩井、岩井臨海学園）、校外学習（都内巡り、鎌倉校外学習）が実施できたこと等、生徒が学校行事を通して充実感を得ることができたことが今回の結果につながったと考えられる。今後も制限をせざるを得ない状況が続いていくが、主体的な活動からくる達成感や友達と協働する楽しみを得られるような教育活動をすすめていく。

【授業内容は理解できますか】

○各教科ともに80%以上の生徒が「授業内容がわかる、だいたいわかる」と回答した。また、「わかる、だいたいわかる」と回答した各教科の平均は88.6%であり、「あまりわからない、わからない」と回答した各教科の平均は11.3%であった。

◇「授業内容がわかる、だいたいわかる」は、すべての教科で増加しており、「あまりわからない、わからない」もすべての教科で減少している。教科別に観ると国語と社会、保体、技家で90%を超えている。昨年、9.3ポイント減少した美術は1ポイント増加している。

学年別に見ると1年生は86.6%、2年生は90%（昨年度比+1.8ポイント）、3年生は88.8%（昨年度比+1.5ポイント）であった。きたコン（一人1台端末）の導入2年目になり、教師は活用について様々な工夫をしている。今後さらに活用が定着することで主体的、対話的で深い学びや協働的な学習がすすみ、学習理解度、定着度はさらに高まることが期待できる。

「あまりわからない、わからない」と回答した生徒が11.3%（昨年度比-1.6%）おり、基礎学習

の定着や既習内容の復習をする時間の確保が課題といえる。

令和4年度王子桜中学校サブファミリー研修では「自ら問いをもち、主体的に学ぶ子供の育成」を研修主題として研究を進めてきた。今後も生徒の「なぜ、どうして、どうすればよい」という知的好奇心や主体的な学習意欲を揺さぶり、常に生徒自ら発生する「問い」を重視した授業を実践していく。

【友だちと楽しく過ごすことができますか】

○96.3%の生徒が「とてもできた、だいたいできた」と回答し、4.7%の生徒が「あまりできなかった、できなかった」と回答した。また、93%の保護者が「そう思う、少しそう思う」と回答した。

◇「とてもできた、だいたいできた」は、全校生徒対象で見ると前年度比で1.4ポイント増加している。学年別で見ると1年生が93.9%、2年生が96.8%（昨年度比+1.3ポイント）、3年生が97.9%（昨年度比+3.9ポイント）であった。昨年末に行った「安心して楽しい学校づくりのためのアンケート」においても友達や先輩から「暴力や嫌なことを言われる」の項目において全生徒が「ない」と回答している。このアンケートからも生徒の良好な人間関係が伺える。各教員の言葉の力を中核とした心に響く寄り添う指導や、授業、行事等での協働活動が生徒同士の人間関係にも良い影響を与えていると言える。

ただ、4.7%の生徒と7%の保護者が友だち関係で不安を抱えている。家庭との連携をさらに密にしていくとともに学年教員だけでなく多くの教員で見守り、気になる生徒がいたらすぐに声掛けをしていく。また、積極的に学級経営支援員やスクールカウンセラー、学校と家庭の支援員の支援も活用していく。

【学校生活では決まりを守ってきちんと生活できていますか】

○96.6%の生徒が「とてもできた、だいたいできた」と回答し、3.4%の生徒が「あまりできなかった、できなかった」と回答した。また、89.7%の保護者が「そう思う、少しそう思う」と回答した。

◇「とてもできた、だいたいできた」は、全校生徒対象で見ると昨年度比で2.6ポイント増加した。学年別で見ると1年生が91.7%、2年生が99.5%（昨年度比+6ポイント）、3年生が96.8%（昨年度比+4.4ポイント）であった。2・3年生ともにこの項目については増加している。実年齢に伴った規範意識が育っていると言える。生活指導上問題のない落ち着いた学校生活が意欲的な学習活動や学校行事等につながっている。

【委員会や係りの仕事をきちんとできていますか】

○94.8%の生徒が「取り組めた、だいたい取り組めた」と回答し、5.2%の生徒が「あまり取り組めなかった、取り組めなかった」と回答した。また、85.2%の保護者が「そう思う、少しそう思う」と回答した。

◇「取り組めた、だいたい取り組めた」は、全校生徒対象で見ると昨年度比で0.8ポイント減少してい

る。学年別で見ると1年生が91.7%、2年生が96.8%（昨年度比-0.8ポイント）、3年生が93.7%（昨年度比+1.1ポイント）であった。若干減少しているものの今年度も委員会や係り活動の責任を果たすという「当たり前のことを当たり前やる」ことの大切さが全校に広がっていると言える。各クラスともに係・委員会決めでは立候補で決まるところからも生徒の意欲が感じられる。

【行事は楽しく取り組みましたか】

○95.6%の生徒が「取り組めた、だいたい取り組めた」と回答し、4.4%の生徒が「あまり取り組めなかった、取り組めなかった」と回答した。また、92.6%の保護者が「そう思う、少しそう思う」と回答した。

◇「取り組めた、だいたい取り組めた」は、全校生徒対象で見ると昨年度比2.7ポイント増加した。学年別で見ると1年生は92.4%、2年生は95.2%（昨年度比-0.3ポイント）、3年生は99.3%（昨年度比+9.4）であった。学校の教育活動の中で新型コロナウイルスの影響を一番受けたものが学校行事である。3年生の99.3%という高いポイントは、修学旅行の実施や体育祭の保護者等の観戦者有りでの実施等、大きな行事が予定どおり実施できたおかげと考えられる。また、実行委員会を中心とした生徒主体の行事が3年生の達成感や充実につながったと考えられる。学校行事は生徒の豊かな心を育む大切な教育活動である。With コロナの学校生活は続くと思われるが、生徒、教職員で知恵を出し合い達成感、満足感を得られるように工夫していく。

【部活動は充実して取り組んでいますか】

○81.7%の生徒が「取り組めた、だいたい取り組めた」と回答し、2.6%の生徒が「あまり取り組めなかった、取り組めなかった」と回答した。また、79.8%の保護者が「そう思う、少しそう思う」と回答した。さらに、保護者アンケートで「部活動は目標に向かって努力する力や粘り強さを育成するのに役立っているか」との問いに対して79.9%の保護者が「そう思う、少しそう思う」と回答している。

◇「取り組めた、だいたい取り組めた」は、全校生徒対象で見ると昨年度比で4.9ポイント減少した。学年別で見ると、1年生が81.9%、2年生で85.1%（昨年度比-7.2ポイント）、3年生で77.1%（昨年度比+1.7ポイント）であった。2年生が-7.2ポイントとなったことについては、毎年のことではあるが、学習塾や習い事との両立が難しくなることが理由として考えられる。本校部活動は文化部も活発に活動している。園芸ボランティア部は、生徒会とタイアップして一般生徒に呼びかけ、屋上菜園や落ち葉掃き等のボランティア活動を行った。

【クロムブックは決まりを守って使っていますか】

○94.8%の生徒が「できた、だいたいできた」と回答し、5.2%の生徒が「あまりできなかった、できなかった」と回答した。本項目は保護者アンケートには入れていない。

◇「できた、だいたいできた」は、全校対象で見ると昨年度比3.3ポイント増加した。学年別で見ると1年生は90.1%、2年生は96.8%（昨年度比-0.2ポイント）、3年生は95.8%（昨年度比+2.2ポイント）

ト)であった。不適切な使用については、制限されているはずのサイトにアクセスしてしまうことや授業中、休み時間中のゲーム、動画視聴や不必要なネット検索などがあった。クロムブックはあくまで学習道具であることを意識させるためにも「みんなで守る約束とルール」を徹底していく必要がある。

【クロムブックを家庭学習で有効に活用していますか】

○66.3%の生徒が「できた、だいたいできた」と回答し、33.7%の生徒が「あまりできなかった、できなかった」と回答した。保護者アンケートの「クロムブックを授業や家庭学習で有効に活用していると思いますか」について、「そう思う、少し思う」と回答した保護者は77.4%、「あまり思わない、思わない」と回答した保護者は22.6%であった。

◇「できた、だいたいできた」は、全校対象で見ると昨年度比3.7ポイント減少した。学年別で見ると1年生は67.5%、2年生64.2%（昨年度比-13.8ポイント）、3年生は68.1%（昨年度比+1.2）であり、「あまりできなかった。家庭学習でのクロムブックの有効活用については来年度に向けての大きな課題の一つである。クロムブック内で宿題プリント（長期休業中の課題含）を提出させたり、定期考査前に学習動画アプリ（e-ボード、スタディサプリ）の視聴を促したりしていく。

家庭学習での活用について教員内で活用方法を共有し生徒に還元していく必要がある。

<その他の保護者アンケート>

【保健室やカウンセリングルームは生徒の心身の成長に役立っていると思いますか】

○77.7%の保護者が「そう思う、少しそう思う」と回答し、22.2パーセントの保護者が「あまり思わない、思わない」と回答している。

◇今年度の生活指導の特徴は表面に出てくる問題行動ではなく、生徒の内面に根差した精神的な問題があげられる。今年度、教職員向けのSOS出し方研修、生徒向けSOS出し方研修を行った。生徒には、周りに支援や助けを求めること自体が自立であり、大切なことであるという意識を育てていく。担任、学年教員とは違った立場の大人（SC、学級経営支援員、学校と家庭の支援員等）の支援により深い悩みを紐解いていくことができる相談体制を作っていく必要がある。

【給食は栄養バランスを考えて実施されていると思いますか】

○96.3%の保護者が「そう思う、少しそう思う」と回答し、3.7%の保護者が「あまり思わない、思わない」と回答している。

◇「そう思う、少しそう思う」は、昨年度比0.3ポイント増加であるが、74.9%の保護者が「そう思う」と回答している。本校保護者の学校給食への大きな信頼が伺える。第二次発育促進期にある中学生にとってバランスの良い食事は不可欠である。来年度も健康で安全な給食を提供していく。（行事食、郷土料理、世界の料理、2学年家庭科献立給食等）

【個人面談や保護者会等でお子様の様子が十分に伝えられていると思いますか】

○93%の保護者が「そう思う、少しそう思う」と回答し、7%の保護者が「あまり思わない、思わない」と回答している。

◇「そう思う、少しそう思う」は、昨年度と同様のポイントだった。まだまだ新型コロナウイルスの影響を受けながらの教育活動であるが、今年度は保護者会が実施でき、後期の土曜授業も人数制限をすることなく行うことができた。今後も生徒のより良い成長のためにも学校と家庭との連携を密にしていく。

【学校・学年だよりや王桜中ブログで保護者に適切な情報提供がされていると思いますか】

○93.4%の保護者が「そう思う、少しそう思う」と回答し、6.6%の保護者が「あまり思わない、思わない」と回答している。

◇「そう思う、少しそう思う」は、昨年度比で0.4ポイント増加した。思春期になり、生徒もなかなか家庭で学校生活について話さないことも予想できる。だからこそ、学校だよりや学年だより、王桜中ブログで生徒の活動の様子、活躍している様子をお知らせし、家族団らんの一助になればと考えている。